



I 教育長挨拶

新学習指導要領の全面実施が、目前となりました。これからの新しい時代に向けて育成を目指す資質・能力の三つの柱、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」これらを育てていくためには、学びの質を高めていくことが一層求められることとなります。道徳科に置き換えて考えますと、「他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性」を養うため、道徳的諸価値の理解を基に、答えが一つでない道徳的な課題を一人一人の子供たちが自分自身の問題と捉え、向き合う学びが求められます。その授業改善の視点が、「考え、議論する道徳」であり、私たちはその実現を目指していく必要があります。

小学校においては平成30年度から、中学校においては平成31年度（令和元年度）から、検定教科書に基づき、先行実施する中で授業改善、評価の在り方について模索しながら実践を重ねてきました。

この間、道徳科における授業改善が、「道徳教育推進協議会」並びに各学校における道徳教育推進教師を中心とし、着実に進んでいるように感じております。しかしながら、人間としてよりよい生き方を求めることを踏まえた道徳的価値の理解、多様であることを前提とした他者理解、何より、自己を見つめ、自己とのかかわりの中でさらに考えを深めようとする自己理解は、不易の課題として今後も研鑽を重ねる必要があると考えます。

学級の基盤づくりも必要であります。子供たちは、実に、多種多様な価値観を持っています。一人一人の子供たちの思いや考えが素直に出し合える学級、その考えを自分の言葉として発言できる土壌を育てることが必要です。他者の多様な考えを自分事として受け止め、考え、自己を見つめ、さらに深く考える学級であってほしいと思います。

人工知能（AI）が飛躍的に進化し、教室の中でも1人1台のコンピュータを活用する時代が到来しました。Society5.0の時代、人間の強みである「感性・倫理観・調整力・責任遂行能力」等、これからの社会を生き抜く基盤を、道徳教育においてもしっかりと培う必要があります。その意味において、道徳教育の果たす役割は、次世代を生きる子供たちの育成に極めて重要であると考えます。

本年度も「道徳教育推進協議会」の皆様には、本町の道徳教育の牽引的役割を果たしていただきました。来年度におきましても、更なる充実を図っていただきたく思います。

結びに、この1年間の取組に対しまして、心からの敬意を表するとともに、御指導いただきました広島県教育委員会、広島県東部教育事務所の皆様はじめ、多くの指導者の皆様方に心から感謝申し上げます、御挨拶といたします。

世羅町教育委員会 教育長 松浦 ゆう子



II 会長挨拶

学習指導要領の改訂に伴い、中学校においても昨年4月から「特別の教科 道徳」（道徳科）が全面実施となりました。

道徳科においては、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に深く考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てることを目標としています。また、発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を自分事として捉えて向き合う「考え、議論する道徳」への転換が求められております。今後は、これまで私たちが積み上げてきた指導の蓄積を生かしながら、問題解決的な学習や体験的な学習などを含めた質の高い多様な指導方法について、さらに実践や研究を深め、その成果を共有することが益々必要となっています。

また、広島県教育委員会では、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」で推進している、学んだ知識を活用し、協働して新たな価値を生み出すことができる力を身に付けることを目指しています。道徳科の授業においても「主体的な学び」となるよう、その改善・充実を図っているところです。

世羅町道徳教育推進協議会では、新学習指導要領及び「広島版『学びの変革』アクション・プラン」の趣旨を踏まえ、「郷土を愛し、夢や志を抱く児童生徒を育てる道徳教育 ～道徳科における『主体的・対話的で深い学び』を通して～」を研究テーマに掲げました。今年度も、この研究を充実させるために、次のようなテーマを設定して、具体的な実践研究を行ってきました。

- 主体的に道徳性を育むための指導
- 多様な考え方を生かすための言語活動
- 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導
- 情報モラルと現代的な課題に関する指導
- 家庭や地域社会との連携による指導
- 道徳科における学習状況及び成長についての評価

道徳教育推進教師の皆さんを中心とした各校のこのような研究の積み重ねが、道徳科の目標の実現に大きく寄与するとともに、世羅町の道徳教育を大きく前進させていると実感しております。

結びになりましたが、今年も1年間、世羅町教育委員会教育長 松浦 ゆう子様をはじめ世羅町教育委員会の皆様には、熱心で的確な御指導、御助言をいただきました。本当に感謝しております。今後とも、本協議会の充実のために、御指導、御助言をいただきますことをお願い申し上げ、御挨拶といたします。

世羅町道徳教育推進協議会 会長 **福光 裕次**



Ⅲ 令和元年度研究概要

1 研究テーマ

郷土を愛し、夢や志を抱く児童生徒を育てる道德教育

～ 道德科における「主体的・対話的で深い学び」を通して ～

2 研究のねらい

ふるさと世羅を基盤とし、道德科における「主体的・対話的で深い学び」の実践研究を通して、郷土を愛し、夢や志を抱く児童生徒を育成する。

3 研究内容

(1) 道德科における「主体的・対話的で深い学び」

- 主体的に道德性を育むための指導
- 多様な考え方を生かすための言語活動
- 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導
- 情報モラルと現代的な課題に関する指導
- 家庭や地域社会との連携による指導

(2) 道德科における学習状況及び成長についての評価

(3) 道德科の授業公開

- 参観日等における道德科の授業公開【全学級実施】
- 道德懇談会の実施【各校1回以上】

(4) 研修の改善・充実

- 実務担当教諭を中心とし、各道德教育推進教師が設定した研修テーマに基づいた実践研究（授業研究を含む）
- 道德科「学習指導案」の改善・充実
- 道德科の理論（「主体的・対話的で深い学び」及び「評価」のポイント）と実践（学習指導案等）をまとめた「報告書」の発行と活用

4 研究経過

月	日	曜	内容【会場】
4	23	火	<p>総 会【せら文化センター 小ホール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 役員・規約について ○ 「平成31年度研究計画」について ○ 「道徳科学習指導案の様式例」について ○ 「道徳科授業評価表」について ○ 「道徳アンケート調査」について ○ 講義・交流「道徳科における学習状況及び成長の様子についての評価」について <p>世羅町教育委員会 主査(兼)指導主事 松本 好弘</p>
6	19	水	<p>第1回定例会【世羅小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究授業(第2学年) <ul style="list-style-type: none"> <主題名> 自分のいいところ(A:個性の伸長) <教材名> 「いいところみつけた」 <授業者> 宮内 浩美 教諭 ○ 研究協議 <ul style="list-style-type: none"> ・中心発問は、ねらいを実現するために適切であったか。 ・主体的に道徳性を養うための指導は充実しており、ねらいの実現につながっていたか。 ○ 指導講話「道徳科における『深い学び』の実現に向けて」 <p>広島県東部教育事務所 指導主事 藤本 哲平 先生</p>
10	8	火	<p>第2回定例会【世羅西中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究授業(第1学年) <ul style="list-style-type: none"> <主題名> 心に郷土を刻もう(C:郷土の伝統と文化の尊重,郷土を愛する態度) <教材名> 「水没した駅」 <授業者> 金末 宣子 教諭 ○ 研究協議 <ul style="list-style-type: none"> ・中心発問は、ねらいを実現するために適切であったか。 ・家庭や地域社会との連携による指導は充実しており、ねらいの実現につながっていたか。 ○ 指導助言 <p>広島県東部教育事務所 指導主事 藤本 哲平 先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 指導講話「道徳科における家庭や地域社会との連携による指導」 <p>広島県教育委員会 指導主事 渡辺 剛 先生</p>

11	14	木	第3回定例会【甲山中中学校】 文部科学省委託「道徳教育改善・充実」総合対策事業推進校 甲山中中学校公開研究会 ○ 公開授業 ○ 研究協議 ○ 指導助言 広島県東部教育事務所 指導主事 藤本 哲平 先生 ○ 講評 広島県教育委員会 指導主事 渡辺 剛 先生 ○ 講演「主体的・対話的で深い学びを促す道徳科の授業づくり」 広島大学大学院教育学研究科 教授 宮里 智恵 先生
2	4	火	第4回定例会【せら文化センター 第2会議室】 ○ 交流「自校における道徳科の実践事例」 ○ 講義・演習「道徳科教材の確かな読み方・活かし方」 広島県教育委員会 指導主事 大橋 美代子 先生

5 検証

(1) 児童生徒

◎目標値達成 ↗第1回比増 ↘第1回比減

指標	目標	第1回 (5月)	第2回 (2月)
「『道徳の授業』の学習は楽しい」と肯定的に回答する児童生徒の割合	90% 以上	86.9% (小)88.4% (中)85.4%	89.2% (小)87.6% ↘ (中)90.8% ↗
「『道徳の授業』では、自分のことを振り返りながら考えている」と肯定的に回答する児童生徒の割合	95% 以上	90.2% (小)89.2% (中)91.2%	92.7% (小)92.8% ↗ (中)92.6% ↗
「『道徳の授業』では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている」と肯定的に回答する児童生徒の割合	95% 以上	89.2% (小)85.2% (中)93.3%	93.3% (小)91.4% ↗ (中)95.2% ↗

「将来の夢や目標をもっている」と肯定的に回答する児童生徒の割合	95%以上	89.9% (小)92.4% (中)87.4%	88.4% (小)93.7%↗ (中)83.2%↘
「今住んでいる地域が好きだ」と肯定的に回答する児童生徒の割合	95%以上	92.8% (小)95.8% (中)89.7%	93.5% (小)96.1%↗ (中)90.9%↗

(2) 教 師

◎目標値達成 ↗第1回比増 ↘第1回比減

指標	目標	第1回 (5月)	第2回 (2月)
『道徳の授業』では、多様な指導方法の工夫を取り入れている」と肯定的に回答する教師の割合	100%	88.2% (小)87.5% (中)88.9%	93.4% (小)96.4%↗ (中)90.5%↗
『道徳の授業』では、児童生徒が自分のことを振り返りながら考えるような指導の工夫をしている」と肯定的に回答する教師の割合	100%	97.6% (小)100% (中)95.2%	100%◎ (小)100% (中)100%↗
『道徳の授業』では、児童生徒が友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりするような指導の工夫をしている」と肯定的に回答する教師の割合	100%	97.6% (小)100% (中)95.2%	98.2% (小)96.4%↘ (中)100%↗
「家庭・地域社会と連携した道徳教育が進められていると思う」と肯定的に回答する教師の割合	100%	77.8% (小)96.9% (中)58.7%	72.1% (小)85.4%↘ (中)58.7%
「保護者や地域の人々の参加・協力を求めた『道徳の授業』を行っている」(地域教材・地域人材の活用等)と肯定的に回答する教師の割合	100%	44.5% (小)79.5% (中)9.5%	62.5% (小)82.2%↗ (中)42.9%↗



IV 実践事例①

「情報モラルと現代的な課題に関する指導」

<甲山小学校>

- 学 年 第6学年
- 主題名 「たいせつな生活リズム」 【A：節度、節制】
- ねらい 携帯電話のけじめのない使い方によって生活リズムが狂ってしまうことを知り、自分の生活習慣を見つめ直し節度を守って生活しようとする態度を養う。
- 教材名 「カスミと携帯電話」(出典：「小学道徳 生きる力6」(日本文教出版))
- 主題設定の理由

[主題観]

本主題は、小学校第5学年及び第6学年の内容項目【A：節度、節制】「安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。」に基づくものである。基本的な生活習慣をしっかりと身に付けることは、人間形成において極めて重要なことである。安定した生活習慣は、私たちの日々の生活を維持していく上で大切なものであることを十分理解し、そのことをもとに、児童一人一人が自分の生活を振り返り、改善すべき点などについて見直しなが、望ましい生活習慣を積極的に確立していこうとする態度を養う必要がある。

本教材は、主人公のカスミが携帯電話を欲しがり、母親から「まだ早い」と止められるが、試しに母親の携帯電話を借りて使い始め、友達のリナとのやり取りを始めることから始まる。夜遅くまでリナとやり取りとす中で、体調不良を起こしたリナの様子から「自分にはまだ早い」と考え、母親に携帯電話を返すという内容である。「自分は大丈夫」という慢心は、多くの児童が持っており、いつ誰でも起こり得ることである。カスミの気持ちの変化を捉えることで、携帯電話自体に問題があるわけではなく、自分自身の生活習慣を見つめ直していく態度が大切であることに気付かせたい。

[児童観]

本学級の児童は、授業でタブレットやパソコンを使うことが多く、ICT機器の取扱いに慣れている。また、家庭でも自由にインターネットが使える環境にある。事前にとったアンケート結果から、13人中10人が自分用としてゲーム機器やICT機器などを持っており、いつでも誰とでも通信できる状態であることが分かった。さらに、通信機能を使って、友達と連絡を取っている児童(13人中7人)、知らない人とオンラインゲームでつながっている児童(13人中4人)という実態もある。

[指導観]

本校の研究テーマ「情報モラルと現代的な課題に関する指導」に関しては、情報化が進展する中で、情報を取捨選択したり、表現やコミュニケーションの手段としてコンピュータなど情報通信ネットワークを活用したりする能力が求められる。同時に、ネット上の有害情報や悪意のある

情報発信など情報の影の部分への対応も求められている。本時は、情報モラルの学習内容を道徳科として、「節度、節制」の内容項目から学び、携帯電話などの使い方を誤ると健康にも被害が及ぶことを理解させ、これからの情報社会を生き抜くために身に付けていくべき力や考え方に気付かせていきたい。

指導に当たっては、アンケート結果を基に、自分たちの情報（情報機器）とのかかわり方を見つめ直すとともに、インターネットに隠れている危険について考えさせる。その際、ペアトークを取り入れて自分の考えや友達の考えについてやりとりをさせ、新しい発見や自分の考えを深められるようにする。また、授業の導入で提示したアンケートを基に、「よりよく生活するためにはどんなことに気をつければいいのか」を考えさせることで、自分事として考えをまとめさせる。終末では、「情報モラルの達人チェックシート」を活用しながら、情報モラルの理解度などについて自分で確認することを関連付けて行う。

● 準備物 場面の挿絵、タブレット

● 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・予想される心の動き	※指導上の留意点
導入 (5分)	1 通信機器の使用に関するアンケート結果について話し合う。	○「アンケート結果を見て思ったことを発表しましょう。」 ・ほとんどの人が通信機器を使っている。	※児童の興味を喚起するためにアンケート結果を提示し、本時の主題につなげる。
展開 (30分)	2 教材「カスミと携帯電話」を読んで話し合う。	○「レイナとのメッセージのやり取りで夜更かしをしているとき、カスミはどのような気持ちだったでしょう。」 ・早くメッセージが見たい。 ・たくさんやりとりができてうれしいな。 ・「やめよう」って言いにくいな。 ・体はだるいのもだんだん慣れるだろう。 ○「重い足取りで帰るレイナの姿を、カスミはどんな気持ちで見送っていたでしょう。」 ・大丈夫かな。 ・夜更かしがしなかったのかな。 ・私が「やめよう」って言っておけば。	※携帯電話でのやりとりに夢中になっている「カスミ」の行動から、なぜそうになってしまうのかについても考えさせる。 ※レイナの「携帯電話が悪いんだ」という言葉を掲示し、本当に携帯電話が悪いのかをグループで話し合わせる。

	3 自分たちの生活を振り返る。	<p>◎「カスミはどんな考えから、お母さんに携帯電話を返したのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このままだといつか倒れてしまう。 ・まだ自分では携帯電話を上手に使えない。 ・お母さんの言う通り、自分にはまだ早かった。 <p>○「毎日同じリズムで生活するためには、どんなことに気をつければよいでしょう。」</p>	<p>※「道徳ノート」に考えを書かせる。</p> <p>※書いたことをペアで交流し、その後全体で話し合わせる。</p> <p>※生活リズムを守るためには節度を守って生活することの大切さに気付かせる。</p>
終末 (10分)	4 「情報モラルの達人チェックシート」で情報全般に関わっての振り返りをする。	<p>*『「情報モラルの達人チェックシート」で情報の扱い方を確かめましょう。』</p>	<p>※「情報モラルの達人チェックシート」で情報の扱い方を振り返りながら、情報モラルについて大切なことも確認する。</p>

● 板書例

	挿絵	<p>◎カスミはどんな考えから、お母さんに携帯電話を返したのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このままだといつか倒れてしまう ・まだ自分では毛依頼電話を上手に使えない ・お母さんの言う通り、自分にはまだ早かった 	挿絵	<p>○思い足取りで買えるレイナの姿を、カスミはどんな気持ちで見送っていたでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大丈夫かな ・夜更かしがいけなかったのかな ・私が「やめよう」って言うっておけば… 	挿絵	<p>○レイナとのメッセージのやり取りで夜更かしをしているとき、カスミはどのような気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早くメッセージが見たい ・たくさんやりとりができてうれしい ・「やめよう」が言いにくいな
		<p>○毎日同じリズムで生活するためには、どんなことに気をつければよいでしょう。</p>			カスミと携帯電話	

● 成果と課題

[成 果]

- ペアトークを取り入れたことで、自分とは違う考えに触れることができた。さらに、友達の考えを聞くことで、物事を多面的・多角的に捉えた深い学びにつながったと考える。
- 情報モラルについて、総合的な学習の時間や特別活動と関連付けて指導を行うことで、情報を扱う上でのルールやマナーとともに、相手を思いやる気持ちや自分を律することの大切さなどについてもあわせて指導することができた。
- 1学期末に全校一斉に情報モラルの授業を行ったことで、夏季休業前に発達の段階に応じた指導ができた。また、警察と連携して全体指導を行ったことでトラブルの未然防止にもつながると考える。

[課 題]

- 他教科等と関連付けた指導であるため、カリキュラムの見直しや改善が必要である。例えば、インターネットを利用して調べ学習をする前に情報モラルの授業を仕組むなど、適切なタイミングでの指導を行うことがより有効である。
- 情報モラルに関する指導については、家庭の協力を得ることで、さらにその効果が増すと考える。保護者への情報発信や啓発、協力的な指導について工夫する必要がある。

[今後の「改善・充実」に向けて]

- ・道徳科と他教科等と関連付けるとともに、発達の段階に応じた「情報モラル教育」を継続的に行う。
- ・参観日に情報モラルの授業を組み、保護者も一緒に考える機会を増やしていく。



IV 実践事例②

「道徳科における学習状況及び成長についての評価」

<せらひがし小学校>

- 学 年 第1学年
- 主題名 「わがまましないで」【A：節度、節制】
- ねらい ひとの注意を聞かないでわがままばかりしていたことによって痛い目にあったかぼちゃの気持ちを考えることを通して、わがままや自分勝手な行動を慎んでよりよい生活につなげようとする心情を育てる。
- 教材名 「かぼちゃのつる」(「しょうがくどうとく いきるちから 1」(日本文教出版))
- 主題設定の理由

〔主題観〕

本主題は、第1学年及び第2学年の内容項目【A：節度、節制】「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」に基づくものである。これは、第3学年及び第4学年「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。」、第5学年及び第6学年「安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。」に繋がっていく。

「節度、節制」とは、進んで自分の生活を見直し、自分の置かれた状況について思慮深く考えながら自らを節制し、程よい生活をしていくことである。一人一人がよりよい生き方を目指し、明るい社会を築いていくためには、人の注意を素直に聞き、節度ある生活をするとともに、自制心をもつことが重要である。しかし、この時期の児童においては、自己中心性が強く、他者の気持ちに気付かず衝動的に行動してしまうことが多い。そこで、わがままをしない規則正しい生活が自分にとって大切なことであり、そのような生活が快適な毎日を送ることに繋がることに気付かせ、自分を客観的に見つめ、自己の現状を内省し、わがままや自分勝手な行動を慎もうとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

本教材は、かぼちゃが、みつばちやちょうちょ、すいか、子犬の注意を聞かず、自分の畑から外へどンドンつるを伸ばしていく。そして、車にひかれて、つるが切れてしまうという話である。

〔児童観〕

本学級の児童は、1学期を終え、学校生活にも慣れ、元気に毎日を送っている。善悪についてはある程度理解しているが、どうしたらいいかわかっていても、「これぐらい大丈夫」「少しぐらいだから」という気持ちで、よくない行動をすることがある。また、自分の気持ちのままに行動してしまうこともある。そんなときは、人から注意をされても受け入れられないことが少なくない。

そこで、自分勝手な言動が、周りにどのような迷惑を掛けるかを考えさせ、わがままな言動を慎もうとする心情を育てたい。

〔指導観〕

本教材を通して、かぼちゃが、わがままな言動を続けた自分に気付き、自分の生活をどのように改善しようとしているのか考えることで、わがままをしない規則正しい生活が自分にとって大切なことであり、そのような生活が快適な毎日を送ることにつながることに気付かせたい。また、自分を客観的に見つめ、自己の現状を内省し、わがままや自分勝手な行動を慎もうとする気持ちについて考えさせたい。

指導に当たっては、「かぼちゃ」の変容を中心に考えさせるために、次の4点に留意する。

- ①導入では、パペットを使って「わがままとはどういうことですか。」と問いかける。そして、遅くまでテレビを見ていたり、好き嫌いをしていたりするイラストを見せることで、ねらいとする道徳的価値への課題意識を持たせる。
- ②展開前段では、誰がわがままをしていたかを確認し、かぼちゃになって動作化させることで、自分勝手に楽しくつるをのぼしているかぼちゃの気持ちを考えさせる。次に、注意したみつばち達の気持ちを考えさせるために、役割演技をさせた後、どんな気持ちだったかを発表させる。その際、「感情カード」を使用して気持ちを表現させる。
- ③中心発問では、「かぼちゃは、涙を流しながら、どんなことを考えたでしょう。」と問い、解きほぐしの発問では、「かぼちゃのようにならないためにはどうしたらよいでしょう。」と問うことで、かぼちゃが失敗を通して学んだことを自分事として捉えさせる。
- ④展開後段では、主題について考えさせる。「なぜわがままはいけないのか」「わがままをしなかったらどんな気持ちになるのか」について話し合わせ、児童が自分事として捉えることができるようにする。

また、本校の研究テーマ「道徳科における学習状況及び成長についての評価」に関しては、次の3点に留意する。

- ①教材の学習では、本時の課題に対する納得解を見つけられるようにする。
- ②教材の学習に留まらず、主題について考えさせる。
- ③終末に視点に沿って振り返りを記述させることで、児童の成長の様子を見取るようにする。

● 準備物 電子黒板、場面絵、発問カード、感情カード、ワークシート

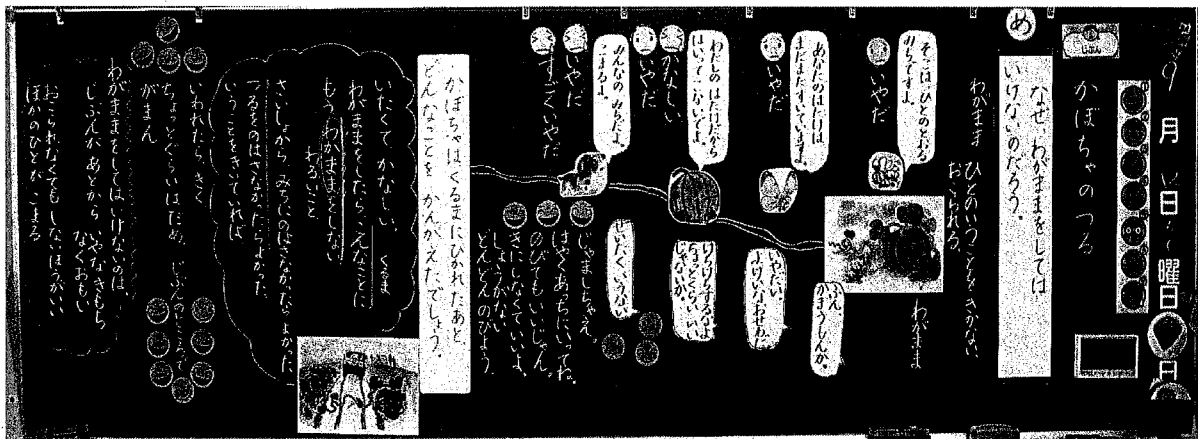
● 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・ 予想される心の動き	指導上の留意点
導入 5分	1 課題意識を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ○「『わがまま』って知っていますか。」 ○「これは、わがままですか。なぜですか。」 <ul style="list-style-type: none"> ・わがまま。 ・注意されているのに聞かないから。 ○「みんなも同じようなことはありますか。」 <ul style="list-style-type: none"> ・ある。ゲームをずっとしていた。 ・遅くまで起きていた。 ・おしゃべりをやめない。 	※パペットを使って問いかける。そして、テレビをずっと見ている場面のイラストを見せ、自分にも同じような経験があることを振り返らせることで、ねらいとする道徳的価値への課題意識を持たせる。

		<p>なぜ、わがままをしてはいけないのだろう。</p>	
<p>展開 35分</p>	<p>2 教材「かぼちゃのつる」を見て考え、話し合う。</p>	<p>○「わがままを言って、つるをのばしているかぼちゃは、どんなことを考えているでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のびてもいいよ。 ・注意されても気にしなくていいよ。 ・にこにこ顔。楽しい顔をしている。 <p>○注意しても聞いてもらえなかったみつばち、ちょうちょ、すいか、子犬は、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく注意してあげたのに。 ・わがままだな。 ・どうして注意を聞いてくれないの。 ・聞いてくれなくて、悲しい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎中心発問 「かぼちゃは、車にひかれたあと、どんなことを考えたでしょう。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・言うことを聞いていればよかった。 ・最初から、つるを道に伸ばさなかったらよかった。 ・わがままをしていたから、こんなことになった。 ・もうわがまますまない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>*より深めるための発問 「かぼちゃのようにならないためには、どうしたらよいでしょう。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・言われたら聞く。 ・ちょっとぐらいでもだめ。 ・我慢する。 ・自分勝手なことをしない。 ・他の人に迷惑をかけない。 ・みんなのことを考える。 	<p>※デジタル教材を活用する。</p> <p>※誰がわがままをしていたかを確認する。</p> <p>※かぼちゃになって動作化させることで、自分勝手に楽しくつるをのばしているかぼちゃの気持ちを考えさせる。</p> <p>※感情カードを使って表現させる。</p> <p>※注意したみつばち達の気持ちを考えさせるために、役割演技をさせた後、どんな気持だったかを発表させる。</p> <p>※道徳ノートに自分の考えを書かせた後、ペアトークをさせる。</p> <p>※自分の考えを伝えるだけでなく、友達のお考えに触れ、自分の考えが深められるようにする。話型を示し、「比べる」、「質問する」ことを大切にする。</p> <p>※児童のお考えを「節度・節制」「周囲への意識」等の視点で類型化して板書することで他者の多角的な考えに触れさせる。</p> <p>【キーワード】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・注意を聞く。 ・がまんする。 </div>

	<p>3 自分の生活を振り返る。</p>	<p>○「なぜ、わがままをしてはいけないのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が後から嫌な気持ちになるから。 ・他の人が困るから。 ・周りの人が嫌な気持ちになるから。 <p>○「わがままをしなかったら、どんな気持ちですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にこにこ顔。 ・周りの人もにこにこ顔。 ・すごくにこにこだと思う。 	<p>※主題について考えさせ、児童が自分のこととして捉えることができるようにする。</p>
<p>終末 5分</p>	<p>4 本時の振り返りをする。</p>	<p>*「今日の学習を振り返りましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わがままを言ってはいけないのは、自分はいい気持ちでも相手は嫌な気持ちだからです。 ・ぼくは、ちょっとわがままなところもあるけど、これからはもう自分でわがままをがまんします。 	<p>※本時の学習からの新たな学びや自分の生活を振り返り、これから生かしたいことを書かせる。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自制することの大切さやそのことが気持ちよい生活につながっていることに気付き、自分の生活に生かそうとしている。

● 板書例



● 成果と課題

[成 果]

導入～課題設定

○パペットを使って問いかけ、児童にとって身近な生活場面のイラストから問題点を見つけ出し、ねらいとする道徳的価値への課題意識を持たせることができた。

動作化・役割演技

○全員にかぼちゃになって動作化させることで、かぼちゃの伸びたいという気持ちに気付かせることができた。また、注意しても聞いてもらえなかったみつばち達になって役割演技をすることで、困り感にも共感させることができた。

対話

○自分の考えを伝えるだけでなく、友達の考えに触れ、自分の考えが深められるようにした。話型を示し、「比べる」「質問する」ことを大切にした。

○感情カードを活用し、気持ちを表現させるとともに、友達との考えの違いを比べられることができた。

深い学びにするための発問の工夫

○児童の発言に対して、「■■■さんの考えをどう思いますか。」「なぜ、そう思いましたか。」と全体に問い返し、広げることが大切である。

評価

○ワークシートに振り返りを書かせることで、児童の成長の様子を見取ることができた。

[課 題]

深い学びにするための発問の工夫

●児童同士で深めることは難しいので、教師のコーディネートが必要である。

[今後の「改善・充実」に向けて]

- ・主題について、指導者自身が自分の考えを持って指導していく。
- ・ねらいから、どこで何を考えさせたらよいかを考え、授業をシャープにする。
- ・思考ツールを効果的に活用する。
- ・思考を深めたいと思ったら、考えさせたいところに戻る。
- ・評価についての研修を継続する。



IV 実践事例③

「主体的に道徳性を育むための指導」

【世羅小学校】

- 学 年 第2学年
- 主題名 「自分のいいところ」【A：個性の伸長】
- ねらい 自分や友達のよいところについて考えることを通して、よいところが見つかり、とても嬉しい気持ちになることに気付かせ、自分のよいところを見つけていこうとする道徳的な態度を養う。
- 教材名 「いいところみつけた」(「小学どうとく生きる力2」(日本文教出版))
- 主題設定の理由

〔主題観〕

本主題と学習指導要領との関連は、次のようになっている。

【A：個性の伸長】

〔第1学年及び第2学年〕「自分の特徴に気付くこと。」

自分のよいところを見つけることは、児童が自己肯定感を高め、将来にわたって自分のよさを発揮していくために大切なことである。しかし、この時期の児童は自分自身を客観視しにくいいため、自分のよいところを自分で見つけるのはやや難しく、周りの人から教えられてはじめて自覚することも多い。そのため、様々な場面で児童のよいところを見つけ、ほめて、認めて、励ますことで新たなよさを見つけようとする態度を養っていくことが大切である。

本教材は、自分はおとなしくてあまり人にほめられないと思っていた主人公の「りさ」が、先生にほめられて、小さい子の面倒をよくみる優しさが自分のよさであることに気付き、とても嬉しくなるという内容であり、技能面に偏りがちな友達のよいところを見つける際の視点を性格面にも広げることのできるものである。

〔児童観〕

本学級の児童は、学級開きで「あたたかい風が流れる学級」について考えることを通して、友達に優しくしたり、掃除や勉強を友達と一緒に頑張ったりできる学級にしていきたいと話合っている。日々の生活の中で、自分の思ったことを友達に伝えたり、力を合わせて活動したり、友達を支える優しい声かけをしたりすることも増えてきた。しかし、自分のことや周りの友達のことを大切にできない言動もまだ多い。友達から「自分にはどんなよいところがあると思われるのか」を知ることにより、もっと自分や友達のよいところを見つけて伸ばしていきたいと実感させることが大切であると考え。

本学級児童を対象に、①「自分には、どんないいところがありますか。」②「友達には、どんないいところがありますか。」というアンケート調査を行ったところ、次のような結果になった。

①「自分には、どんないいところがありますか。」→全員が「ある」と回答

○技能面のよさ（15人）

- ・サッカーがうまい。
- ・字がきれい。
- ・空手でほめられる。
- ・足が速い。
- ・なわとびがうまい。
- ・記憶力がいい。
- ・ピアノができる。
- ・足し算ができる。
- ・連絡帳を素早く書ける。
- ・声大きい。 など

○性格的なよさ（6人）

- ・人に優しくする。
- ・元気がいい。
- ・頑張る。
- ・明るい。 など

○技能面と性格的なよさの両方（3人）

②「友達には、どんないいところがありますか。（誰の、どんなところがいいと思いますか。）」→全員が「ある」と回答

○技能面のよさ（7人）

○性格的なよさ（7人）

○技能面と性格的なよさの両方（10人）

- ・姿勢、返事がいい。
- ・絵がうまい。
- ・直しを頑張っている。
- ・笑顔がいい。
- ・優しい。
- ・スリッパを揃えている。
- ・きちんと注意をする。
- ・誘ってくれる。
- ・一緒に遊んでくれる。
- ・元気がいい。
- ・仲間に入れてくれる。 など

今回のアンケート結果から、本学級の児童は、全員「自分にも友達にもよいところがある」と思っている。そして、自分については、技能面のよさを感じているが児童が多いが、友達には性格的なよさを感じている児童が多い。また、自分の書いていないよさを友達に書いてもらっている児童も多い。

そこで、本教材を通して、「自分にもまだ気付いていないよさ」があるかもしれないことに気付かせ、「友達や自分のよさをもっと見つけていきたい」という態度を養っていきたい。

〔指導観〕

本校の研究テーマは「自分の考えや気持ちを進んで伝え合う児童の育成～コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確にした授業づくりを通して～」である。また、世羅小学校担当の道徳科研究テーマは、「主体的に道徳性を育むための指導」である。

指導に当たっては、まず、教材の主人公「りさ」が先生に自分のよいところをほめら

れ、認められることによって嬉しさを感じていることに気付かせる。そして、友達と一緒に自分のよいところを見つけていくグループ学習に重点を置くことにより、自分のよさを見つけてもらったり、見つけたりすることの嬉しさを実感させていきたい。さらに、保護者に書いてもらった児童への手紙（よいところを書いてもらった手紙）を読ませることにより、家庭とも連携して児童の態度を養っていきたい。

この学習での「いいところ見つけ」活動が、学級で取り組んでいる「ほめことばシャワー」などの様々な場面で生かせることに気付かせ、学習後も「自分や友達のよいところを見つけていきたい」「自分のよいところをもっと伸ばしていきたい」という児童の主体的な活動につながるようにしていきたい。

また、大型テレビを使用して、教材などを提示する視覚支援を行うことにより、課題の共有化を図っていきたい。

- 準備物 場面絵、発問等の短冊、いいところ見つけカード、保護者からの手紙（いいところ見つけカード）、大型テレビ、iPad

● 学習指導過程

	学習活動	○主な発問と予想される児童の心の動き（◎中心発問）	指導上の留意点（☆評価の観点）
導入	「ほめ言葉シャワー」で友達のいいところを紹介していることを想起する。	○「『ほめことばシャワー』を言ってもらおうと、どんな気持ちになりますか。」 ・嬉しい。	◎学級の取組を思い出して、本時への期待を持たせる。

<p>展 開</p>	<p>2 教材「いいところみつけた」を読み、話し合う。</p>	<p>○「リエさんは自分のことをどう思っているのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おとなしい子 ・あまりほめられない ・よいところはない <p>○「しょうたくんは、リエさんのことをどんな子だと思っているのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そうじをさぼる子 <p>◎『『小さい子のめんどうをみることができるのは、リエさんのいいところですね。』と先生に言われたリエさんは、どんなことを考えたでしょう。』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほめられてうれしい。 ・これからも小さい子の面倒を見よう。 <p>(補助発問)</p> <p>○「先生にほめられて、いいところはないと思っていたリエさんの気持ちは、どう変わったでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしにもほめられるところがある。 ・わたしにもいいところがある。 	<p>※教材を場面ごとに分けて読むことで登場人物の心情をつかませる。</p> <p>※教材を大型テレビで提示することにより、視覚支援を行う。</p> <p>※リエさんとしょうたくんの思っていることを比較しながら考えることで、リエさんが自分にはよいところがないと思っていることをおさえる。</p> <p>※リエさんが先生の言葉によって、どんなことに気付いたか考えさせる。</p> <p>※自分の気付いていない、いいところがあるかもしれないという期待を持たせる。</p>
----------------	---------------------------------	--	---

	3 友達のよいところを見つけ	*「友達のいいところを見つけ	※3～4人グループになり、友達のよいところをカードに書いて、交換させる。 ※書くことが難しい児童には事前に尋ねておき、下書きをしておく。
	4 保護者からの手紙を読む。	*「お家の人の手紙を読みま	※保護者からの手紙で自分のよいところに気付かせ、嬉しさを感じさせる。
終末	5 本時の振り返りをする。	○「じぶんのいいところって、 どんなところでしょう。」 ・わたし（ぼく）のよいところは、～です。 ○「今日の学習で、(友達やお家の人にいいところを見つけてもらって)思ったことを書きましよう。」	※友達のカードや保護者からの手紙を参考にして、自分のよいところを「道徳ノート」に書く。 ※自分のよいところを見つけてよかったと感じて書いていることを紹介する。

● 板書例

おもったこと

ともだち
のよいと
ころ

自分のよ
いところ

じぶんのよいところってどんなところでしょう。

・ほめられてうれしい。
 ・これから小さい子のめんどうを見よう。
 ・わたしにもほめられるところがある。
 ・わたしにもいいところがある。

場面絵

「小さい子のめんどうをみるのができるのは、
 リえさんのいいところですね。」と先生に言われ
 う。

場面絵

○しろうたくんはリえさんのことを
 ・そうじをさぼる子

場面絵

○リえさんはじぶんのことを
 ・おとなしい子
 ・あまりほめられない
 ・よいところはない

いいところみつけた

● まとめ

[成 果]

- 自分の長所を友達や家族から伝えられ実感をもって感じる事ができていた。
- 保護者にどういう意図で手紙を書いてもらいたいのか事前に知らせを出したり、ひらがなの読み書きが不十分な児童にひらがなシートを準備したり、授業をつくっていく上で入念な準備がなされていた。そのため児童が迷うことなく道徳的価値に迫ることができていた。
- 保護者から児童への手紙があったことで、温かい雰囲気の中で授業を終えることができていた。
- 友達や保護者からの言葉は、自分では気づき得ない自分のよさに気付かせてくれるものになったと思う。ねらいに迫るために有効な手段であった。
- 終末の自分のいいところを書き出す活動の際、友達からもらったメッセージや保護者からの手紙を見ながら書いていたので新たな気づきにつながっていた。

[課 題]

- 顔のマーク（笑顔、悲しい顔）を選ぶ時に、なぜその顔にしたのか理由を聞くことで、より主体的に児童が判断できたと思う。

[改善策]

- ・表情カードを有効的に使うことで、より主体的な授業展開にすることができる。
 - 1) 選択した理由を問う。
 - 2) その理由についてペアトークを行い、個々の考えに気付く。
 - 3) ワークシートにも表情カードを示し、それを選択させて理由を書く。



IV 実践事例④

「問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導」

<せらにし小学校>

- 学年 第1学年
- 主題名 「しんせつは いいきもち」【B：親切、思いやり】
- ねらい 親切なくまの姿からおおかみが学んだことを考えさせることを通して、意地悪をした時よりも、親切にした時のほうがずっと気持ちがいいことや親切はつながることを理解し、身近にいる人に親切にしようとする道徳的な心情を育てる。
- 教材名 「はしのうえのおおかみ」(「しょうがどうとく いきるちから 1」(日本文教出版))
- 主題設定の理由

〔主題観〕

本主題は、小学校第1学年及び第2学年の内容項目【B：親切、思いやり】「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」に基づくものである。児童にとって、親切な行為をすることによって得られる喜びについて理解し、親切にしようとする気持ちを育てることは、人の喜びを自分の喜びとして受け止め、人の心に寄り添うことができる温かな関わりを築いていくための基盤となるものである。

本教材は、自分よりも小さな動物たちに意地悪をするおおかみと、くまに親切にされたおおかみの気持ちを比べてることを通して、「親切にすることのよさ」に気付かせ、親切にしようとする心を育むことのできる教材である。

〔児童観〕

本学級の児童は、道徳科の学習に対して、肯定的に回答している児童が多い。授業中には、積極的に手を挙げて自分の意見を発表する児童が多いなど、意欲的に学習をしている。

設問	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
「道徳の授業」の学習は楽しい。	10	1	0	0
「道徳の授業」では、自分のことを振り返りながら考えている。	9	2	0	0
「道徳の授業」では、友達と話し合うなどして、考えを深めたり、広げたりしている。	11	0	0	0

「親切にすることのよさ」については、人に優しくすることや親切にすることはいいことであるということは知っている。しかし、それは「褒められるから」「大人が言うから」などと周りの大人からの声掛けなどから感じていることである。「親切にされると嬉しいから」「親切をすると、みんながいい気持ちになるから」というように親切にすることの喜びやそのよさを十分に理解している児童は少ない。

〔指導観〕

指導に当たっては、おおかみ役になり切っておおかみの気持ちの変化を考えさせることにより、親切をすることのよさを感じさせ、「褒められるから」「大人が言うから」ではなく、親切にする

ことで得られるよさを理解させたい。

本校の研究テーマ「問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導」に関しては、本学級の児童の「親切にすることの喜びやそのよさを十分に理解していない」という課題を解決していくような授業構成を仕組んでいく。

児童には、「はじめのおおかみ」の気持ちを考えることを通して、おおかみの問題点（意地悪をすること）へ目を向けさせ、学習の問題意識を持たせる。その後、くまと出会った後のおおかみの気持ちや行動の変化を考えさせることで、「親切をすると気持ちがいい」「親切は繋がっていく」などの親切をすることのよさを捉えさせていきたい。そして、親切にすることの喜びやそのよさを十分に理解していない児童に、親切にすることで得られるよさを理解させていく。

● 準備物 おおかみの顔カード、黒板掲示用挿絵、発問札

● 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 今までの経験を想起する。	○「親切にする」って、どんなことでしょうか。 ・やさしいこと。 ・友達が教科書を見せてくれたこと。 ・困っていたら「大丈夫」と言ってくれたこと。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">しんせつにすることの よさを かんがえよう。</div>	※今までに親切にされた経験を想起することで、「親切」に関して具体的なイメージをもたせ、本時への方向付けをする。

2 教材「はしの
うえのおおか
み」を読んで話
し合う。

*「おおかみ」の気持ちや様子の変わり方に
気をつけながら聞きましょう。

○「こらこら、もどれ、もどれ。」と意地悪を
している時、おおかみは、どんなことを心
の中で考えていたでしょう。

- ・自分が通るんだから周りの人がよけて当然。
- ・自分の言うことを聞いておもしろいな。
- ・おれは強いんだ。

○最後の場面でおおかみは、「前よりずっと
いい気持ちでした」とありますが、なぜず
っといい気持ちだったのでしょうか。

- ・いじわるは、相手が悲しむから。
- ・親切は相手が喜ぶから、それがうれしい。

(補助発問)

意地悪なおおかみは、誰のおかげで、親切にで
きるようになったのかな。

3 これからの自
分の生き方に
ついて考える。

◎くまさんに親切にしてもらって、おおかみ
は心の中でどんなことを考えたでしょう。

- ・親切にされて、うれしいな。
- ・くまさんみたいに親切にすればよかったん
だな。
- ・くまさんのまねをしたいな。

○「親切はつながる」のであれば、この話
には続きがあるのかもしれないね。

○これから、誰に、どんな親切をしていき
たいですか。

※教材に集中するため、教
師が読み語る。

※意地悪なおおかみにな
りきってセリフを言わ
せることで、おおかみの
心情に共感させる。

※「はじめのおおかみ」の
気持ちを考えることを
通して、おおかみの問題
点に目を向けさせる。

※2つの場面を比較する
ことで、意地悪と親切の
違いに気付かせる。

※「相手」は、自分より強
い人だけでなく、自分より
弱い(幼い)人も含める
ことを確認する。

※くまの役割やよさを考
えることを通して、価値
への理解を深める。

【キーワード】

親切は気持ちいい
親切のつながり

☆おおかみがくまから学
んだこと(親切のよさ)
を考えることができる。
(発言・ワークシート)

※話の続きを予想させる
ことで、「親切のつなが
り」のよさを感じ取らせ
る。

※「年下(自分より幼い)」
への親切も大切である

			<p>ことを再度振り返る。</p> <p>※「親切にすると～」という言い方で本時の学習をまとめ、今後の自分について考えさせる。</p> <p>※考えたことをワークシートに書かせる。</p>
終末	4 教師の説話を聞く。	*先生の話をお聞きしましょう。	<p>※普段の児童の様子も紹介しながら、親切のよさについて話し、自信や期待感をもたせる。</p>

● 板書例



● 成果と課題

[成 果]

- くまに親切にしてもらった後やうさぎに親切にしている時のおおかみの気持ちを考えることで、「親切することのよさ」を表す言葉を児童から引き出すことができた。
- 「親切はやさしいことをすること」だと思っていた児童が、「親切は、した人もされた人も気持ちがいいこと」や「親切はつながっていく」などと発表し、親切に対する考えの幅を広げることができていた。
- 始めにおおかみの問題点（意地悪をすること）を捉えさせたことで、児童が課題意識をもって学習に入ることができた。その後、「おおかみの問題点が改善したのは誰のおかげか」「おおかみの変化を見た自分たちはこれからどうするか」などと積極的に意見を言うことができ、問題解決的な思考を取り入れた学習をすることができた。

[課 題]

- 「えへん、へん」という言葉が児童に馴染みがなかったために、おおかみになり切って考えていた児童に「えへん、へん」の言い方の違いでおおかみの気持ちの変化を表現させることができなかった。
- 挿絵の動物の表情の変化も取り上げると、児童により身近に実感をもって登場人物の気持ちの変化を感じさせることができた。

[今後の「改善・充実」に向けて]

- ・問題解決的な学習を行っていくために、道徳科でも、児童自身に課題を見つけさせ、解決するための方法を友達と協力して考えさせていく。
- ・道徳科でも、低学年からの繋がりを意識して、多様な学習形態での授業構成を考えていく必要がある。
- ・低学年で、「素直に自分の意見を言う」「自分や友達の良いところに気付く」「周りの人の意見を聞き入れる」などの道徳性を育てておくことが上の学年の学習へと繋がっていく。



IV 実践事例⑤

「情報モラルと現代的な課題に関する指導」

<甲山中学校>

- 学年 第2学年
- 主題名 「情報モラルと友情」【B：友情、信頼】
- ねらい 感情的にすれ違いながらも、5人の主人公の気づいたことを考えることを通して、互いに励まし合い、高め合って、平等で対等な関係を培おうとする道徳的な態度を育てる。
- 教材名 「ゴール」(「新しい道徳2」(東京書籍))
- 主題設定の理由

〔主題観〕

本主題は、中学校学習指導要領特別の教科【B：友情、信頼】「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。」とともに、中学校学習指導要領第1章総則第2の2の(1)に基づく情報活用能力の育成を目指すものである。

人間の社会は、互いの協力や助け合いによって、よりよい社会生活が営まれ文化が向上していく。その社会生活の中で育まれる友情は、互いの特徴や個性を尊重し、支え合い、競い合い、高め合うことによって深まる。しかし、共通の目的を共有する仲間だからこそ、互いの思いをぶつけ合い、感情の行き違いが生じ、せっかく築いた友情関係が崩れかけることもある。思春期においては、こうした悩みや葛藤を乗り越えることで互いの信頼が増し、友情がさらに深まっていくのである。一方で、現代社会においては、広く普及しているメッセージアプリを使用し、十分に時間をかけて吟味していないメッセージでやりとりを行い感情的にエスカレートしてしまったり、より細分化したグループを作成し仲間外し状態を作ったりすることで、実生活における人間関係に大きく影響を与え問題が大きくなってしまふことが起こりやすい。こうした現代的な状況も踏まえた上で、どのように友人関係を築けばよいかを考えさせ、友情、信頼を培っていくことの大切さに気付かせたいと考え、本主題を設定した。

〔生徒観〕

本学級の生徒は、アセスメントにおける友人サポートが標準を大きく上回る数値であり、6月に行った教育相談アンケートにおいても、友達関係で悩んでいる生徒はいなかった。その一方で、相手の状態や思い、考えを推察しながら、お互いを励まし、高め合っていく具体的な行動を見る場面は少ない。相手に干渉することで、周囲の中での人間関係バランスの崩れを警戒しているようにも感じる。

また、本学級の生徒にインターネットの利用状況についてアンケートを行ったところ、「1日1時間以上インターネットを利用する」と回答した生徒は71%であった。さらに、利用する用途別に集計すると、約21%の生徒が他者とのコミュニケーションを目的にインターネットを利用していることが判った。

これらのことから、多くの生徒が日常的にインターネットを活用しており、今後もその幅は広がっていくと考えられる。これらを有効に活用していくための情報モラル指導の視点も踏まえながら、本主題における道徳的価値に迫る必要があると考える。

〔指導観〕

指導に当たっては、メッセージアプリを用いたやりとりの特徴を捉えさせながら、登場人物5人の心が一つになったということから、友情を育てていく上で大切にすべきことを考えさせる。その際、タブレットを用いてそれぞれの考えを提示・共有したり、メッセージアプリでのやりとりに直接書き込みながら考えさせたりすることで、多面的・多角的な視点を持って考えさせたい。また、ペア活動において一往復半以上の対話を行うことで、相手に判断の理由を伝えるとともに、質問を受けることによって、お互いの考えを深めさせたい。

本校の研究テーマ「情報モラルと現代的な課題に関する指導の工夫」に関しては、登場人物が行ったメッセージアプリでのやり取りの問題点を考えさせることを通して、ICT機器を用いたコミュニケーションにおける危険性や注意点についても触れていく。

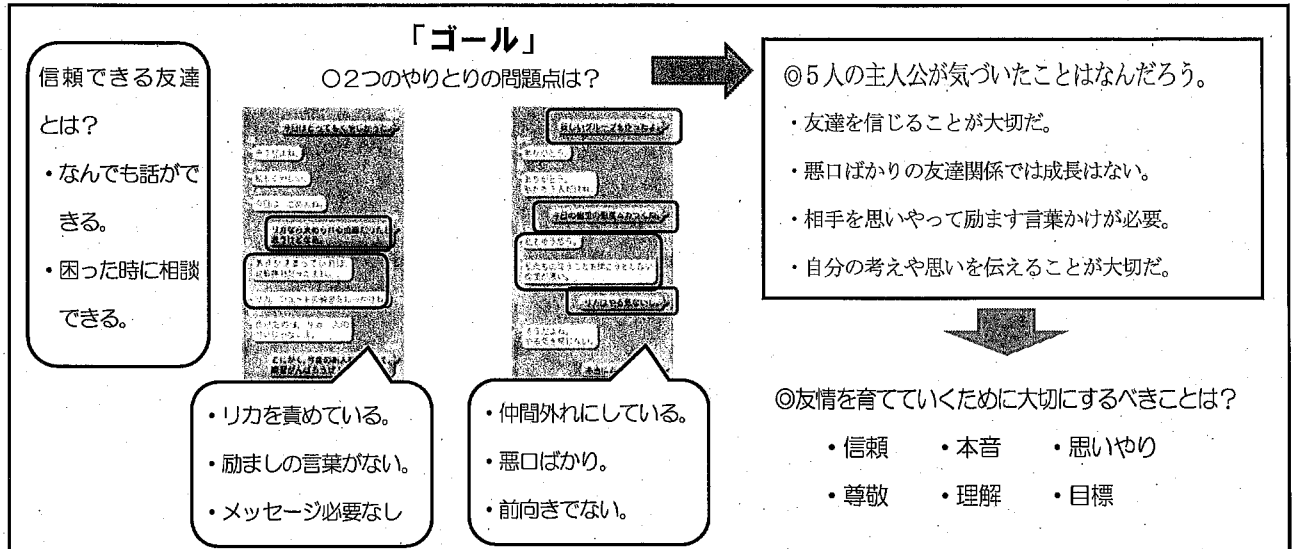
● 準備物 ワークシート、電子黒板、タブレットPC

● 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 アンケートの結果から、自分たちの現状を確認する。	○次の質問に教えてください。 →「自分には信頼できる友達がいる」 補 どういう人が信頼できる友達ですか。 ・なんでも話ができる人。 ・困ったときに相談できる人。	※タブレットのアンケート機能を活用する。
展開	2 教材を読む。 3 メッセージアプリによるやりとりの問題点を捉える。 【ペア活動】 →【全体交流】	○2つのやりとりの問題点はどこだろう。 やりとり① ・どこことなくリカを責めている。 ・リカに対する励ましの言葉がない。 ・わざわざメッセージを送る必要がない。 やりとり② ・リカと樹里を仲間はずれにしている。 ・悪口ばかりを言っている。 ・前向きな友人関係ではない。 ・リカがやる気がないと決めつけている。 ・ひとりの意見に同調している。	※教材を範読する。 ※やりとりの特徴的な部分に印をつけさせる。 ※ペアで1台のタブレットを使用させ、相談しながら書き込ませる。 ☆友情を育む上での問題点を様々な視点から捉え、考えようとしている。

展開	<p>4 登場人物5人の心の変化を捉える。 【個人思考】 →【全体交流】</p> <p>5 自己をみつめて考える。 【個人思考】 →【ペア活動】 →【全体交流】</p>	<p>◎5人の主人公が気付いたことは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達を信じるのが大切だ。 ・悪口ばかりを言っている友達関係では成長はない。 ・友達だからこそ、相手を思いやって励ます言葉かけが必要だ。 ・相手にあわせるだけでなく、自分の考えや思いを伝えるのが大切だ。 <p>○友情を育てていくために大切にすべきことは何だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼 → 信じ合えること ・本音 → 何でも話せること ・思いやり → 友達の気持ちを考えること ・尊敬 → 友達の立場になること ・理解 → 友達をよく知ること ・目標 → 同じ目標を持つこと 	<p>※T1とT2が連携して机間指導を行い、意図的指名により発言をつなげる。</p> <p>※タブレットに簡潔なキーワードを書かせる。</p> <p>※ペア活動において一往復半以上の対話を行い、自らの考えを深めさせる。</p> <p>☆友情を育てていくために大切にすべきことを自分のこととして考え、今後の生活に生かそうとしている。</p>
終末	<p>6 学習のまとめをする。</p>	<p>*今日の学習で考えたことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい友人関係を築いていくために、自分から相手のことを理解してこうとする姿勢が大切だと思いました。 ・私は友達に気を使ってなかなか自分の思いを言えないことがあるけど、本当のことを素直に言える関係を作っていきたいと思いました。 	<p>○評価の視点にそった感想を意図的指名により発表させる。</p> <p>☆友情を育てていくために大切にすべきことを考え、互いに励まし合い、高め合う、平等で対等な友人関係について考えている。</p>

● 板書例



● 成果と課題

[成果]

- T1とT2の事前打ち合わせを念入りに行ったことで、適切に連携を取りながら授業を進めることができた。
- 問い直しの発問により、情報モラルについても考えさせたい道徳的価値と関連付けて考える機会をつくることができた。
- ペアでタブレット端末を用いて交流したり、書き込んだ内容を全体で交流したりすることで、多様な考えに触れさせ、多面的に考えさせることができた。

[課題]

- 基本発問から中心発問へのつながりが多少不自然であった。中心発問を「5人は本当の友達といえるのだろうか」とすることで、さらに多面的に考えさせることもできたのではないだろうか。

[今後の「改善・充実」に向けて]

- ・生徒は、一往復半の対話を意識的に取り組んでいるが、まだまだ十分に定着していない様子である。また、対話の際の声が小さい事も課題である。今後も引き続き、対話の時間を十分に確保し、生徒が対話の中で深めていく授業を目指していきたい。
- ・本校の研究テーマに関わっては、生徒の現状を考えると情報モラルについても道徳科で積極的に扱っていく必要があると考える。一方で、情報機器の使い方や危機管理の方法のみの指導に偏ってしまわないよう、本時での扱い方を参考にして他の教材でも情報モラルと関連した指導を行ってきたい。



IV 実践事例⑥

「多様な考え方を生かすための言語活動」

<世羅中学校>

- 学年 第2学年
- 主題名 「いじめのない世界へ(1)」【C：公正、公平、社会正義】
- ねらい いじめの傍観者の気持ちを考えることを通して、たとえいじめを止めようとする心があっても、実際に行動を起こすことができなければ、それはいじめに加わっているのと同じであることに気付き、誰に対しても公正に接し、差別や偏見のない社会をつくろうとする道徳的実践意欲を育てる。
- 教材名 「私のせいじゃない」(「新しい道徳2」(東京書籍))
- 主題設定の理由

〔主題観〕

本主題は、中学校学習指導要領特別の教科道徳【C：公正、公平、社会正義】「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。」に基づくものである。

とりわけ中学校の段階では、周囲で不公正があっても、多数の意見に同調したり傍観したりするだけで、制止することができないことがある。そのため、いじめや不正な行動等が起きても、勇気を出して止めることに消極的になってしまうことがある。そうした自分の弱さに向き合い、必要に応じて自分の意志を強く持ち、正義と公正を実現するために力を合わせて努力することや、自分と同様に他者も尊重し、誰に対しても公平に接することが、差別や偏見のない社会につながっていくということに気付かせるために本主題を設定した。

本教材は、一人の男の子が泣いているが、周囲は「私のせいじゃない」と言う、いじめの原点を示した絵本をもとにしたものである。一人一人の言い分(言い訳)を読むと、傍観者もいじめの原因になっていることが、はっきりとわかる。人間のもつ弱さにも向き合わせ、勇気を出して止めることの大切さも理解できる教材である。

〔生徒観〕

本学級の生徒は、明るく活発な生徒が多い。しかし、小学校からほぼ変わらない人間関係で生活していることもあり、特定の間関係のみで交流が完結し、人間関係が希薄な面がある。

本主題に関する生徒質問紙調査の結果は、次のとおりである。

(令和元年5月7日実施、回答33人)

質問項目	肯定的回答(%)
①いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思います。	100
②いじめを見かけたら、止めたいと思います。	100
③いじめを見かけたら、どんな時でも止めることができます。	87.9
④仲の良い友達が人をいじめていたら、やめさせることができます。	87.9

<p>⑤これまで（中学生になって今まで）、あなたは集団のどの立場に ことが多かったですか。次の中から1つ選んでください。 →「加害者」「被害者」「観衆」「傍観者」「無関心」「仲裁者」</p>	<p>加害者… 6.0 被害者… 6.0 観衆 … 6.0 傍観者…<u>24.2</u> 無関心…<u>51.5</u> 仲裁者… 6.0</p>
---	---

⑥⑤で選んだ立場にいるのは、なぜですか。（自由記述、傍観者の生徒の回答のみ）

- ・怖いから。
- ・止めたら自分もいじめられるかもしれないから。
- ・自分が被害者になりたくないから。
- ・止める勇気がないから。
- ・何も起こらない安定した立場だから。
- ・どうしたらいいかわからないから。

質問項目①・②の肯定的回答はいずれも100%で、いじめがいけないことであり、見かけたら止めなければならないことであると生徒は理解していると言える。

しかし、⑤の回答の中で「傍観者」と「無関心」を合わせると75.7%であった。また、質問項目⑥の「傍観者」と回答した生徒の記述からは、「面倒なことに自分が巻き込まれたくない」もしくは「いじめに対して具体的にどうやって止めればいいのかわからない」という意識が読み取れた。また、被害者になった経験が少ないため、いじめはいけないと頭では理解していても、被害者の辛さや心の傷の深さに共感しきれず、自分のこととして捉えることができない生徒もいる。そのため、自分のまわりにあるいじめに対して無関心になり、消極的なかわりにとどまってしまう、結果的にいじめを見逃し、黙認してしまっている場合もある。

本時の学習を通して、いじめに関わる加害者、傍観者、無関心のそれぞれの立場でいじめについて考えることで、誰に対しても公正に接し、差別や偏見のない社会をつくろうとする道徳的実践意欲を育てる必要がある。

〔指導観〕

指導に当たっては、次の3点に重点を置く。

1点目に、いじめを多面的・多角的に考えるために、3つの教材を3時間連続で取り扱う。1時間目は、いじめの定義や事例を取り上げながら、どのような行為がいじめになるのか、被害者と加害者の視点から考えさせる。また、2時間目（本時）には、いじめをなくすには何が必要かを傍観者の視点から考える。そして、3時間目に、いじめが起こりにくいクラスは、どんなクラスかについて考え、いじめを生まない関係づくりへとつなげていきたい。

2点目に、道徳的課題に対する意識を高めるために、2時間目の導入において、いじめ認知件数の推移を掲示する。近年、増加傾向にあること、認知件数=発生件数ではないということを伝えて、いじめは身近に起こり得る深刻な問題であることを意識させたい。

3点目に、道徳的な感情を道徳的な行動に結び付けるために、2時間目の終末を工夫する。本時では、カナダの事例を紹介する。この事例は、男子高校生2人が、ピンク色のTシャツを着て

登校したことでからかわれ、暴行を受けた男子中学生の存在を知り、仲間と共にピンク色のTシャツを着て登校するという実話である。いじめをなくすために、加害者に注意することはもちろん大切だが、被害者に「一人じゃない」「味方だよ」というメッセージを送ったり、多くの人に声をかけて問題に立ち向かったりする方法もあることを伝えたい。そして、「自分にもできることがある」という気持ちを持たせたい。

本校の道徳科の研究テーマ「多様な考え方を生かすための言語活動」に関しては、小集団学習を取り入れることで、多様な考え方に会える場を設定する。

● 準備物 ホワイトボード用紙、ホワイトボード用ペン、磁石、ワークシート

● 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・予想される心の動き	指導上の留意点
導入 5分	1 いじめ認知件数の推移を見て、課題意識をもつ。	＊「410,000」この数字は何を表しているでしょうか。 ＊今日の話には、泣いている子が登場します。「なぜ泣いているのか」を考えながら聞いてください。	※いじめが深刻な問題であることを意識させる。
展開 35分	2 範読を聞き、自分の考えをもった後、班で考え、全体で発表する。 (個人思考→小集団活動→集団思考)	○この子が泣いているのは、誰のせいだろう。 ・3番…叩いたから(加害者) ・2・6・7・8・9番…加害者や被害者のせいにしてから。(傍観者) ・1番…別の関わり方があると思うから。(傍観者・無関心) ・4・5番…助けようという思いがあるのかもしれないが、結局見ているだけだから。(傍観者) ・1～9番…叩き始めた人が1番悪いと思うけど、結局全員泣いている子の問題を解決していないから。無関心も結局悪だから。	※教科書に○△×を記入させる。 ※「知らないことは悪なのか」と問い直しをする。 ※全体で交流後、傍観者も無関心も加害者と同じことに気付かせる。
	3 よりよい生き方について考える。(集団思考)	○周りの人に、できたことは何だろう。 ・加害者に注意する。叩くのをやめさせる。 ・大人に助けを求める。 ・被害者に「どうしたの」と尋ねる。	
	4 課題の解決について考える。	○なぜ、その行動を取らなかったのだろう。	

	<p>(個人思考→たずね歩き→集団思考)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分には関係ないから。 ・仕返しが怖いから。 ・自分が関わった所で解決しないから。 <p>*実際の状況を見てみましょう。全国の中学生のアンケート結果です。</p> <p>◎いじめや差別をなくすには、どうしたらいいだろう。</p> <p>[仲裁者の視点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉や行動が、いじめかもしれないという意識を常にもつ。 ・自分の弱さを克服し、いじめを止める勇気を出す。 <p>[被害者サポートの視点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害者への積極的な関わり、声かけをする。 ・普段から誰とも分け隔てなく接する姿勢をもつ。 	<p>※アンケート結果を見て、多くの生徒がいじめを止めたいと考えているが、止められていないことに気付かせる。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>5 自分の言葉で本時のまとめ、教師の説話を聞く。</p>	<p>*今日の授業を通して、感じたことや考えたことを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(生徒のまとめ例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは加害者がいじめをやめればいいと思っていたけれど、周囲の力でいじめはなくせると思った。力を合わせて、適切な行動をとりたい。 ・もし、いじめられている人がいたら、周りの誰かではなく、私自身が手を差し伸べたいと思った。 ・普段から何となく「この人はこう」とその人の個性を決めつけて、仲の良い子とだけ関わっていた。これからは、誰とも分け隔てなく接し、誰もが「相談したい」と頼ってくれるような思いやりのある人になりたい。 </div>	<p>☆いじめの問題を自分事として捉え、深く考えている。 (ワークシート)</p>

● 板書例

◎ いじめや差別をなくすにはどうしたらいいだろう。

- ・ いじめかもしれないという意識を常にもちたい。
- ・ 誰とも積極的に関わり、声をかけ合いたい。

○ 周りの人にできたことは何だろう。

- ・ 注意する。叩くのをやめさせる。
- ・ いじめられている子に「どうしたの」と尋ねる。

アンケート結果

↕

場面絵

※被害者から見ると傍観者もいじめに加担しているように感じる。

○ この子が泣いているのはだれのせいだろう。

「私のせいじゃない」

・ 420000件

・ 年々増加

● 成果と課題

[成果]

○個人思考から小集団活動の場の流れを設定することで、自分の考えを基に表現する機会を充実させることができた。

[課題]

- 生徒が自分の考えを積極的に伝え合い、考えを深めるための手立てが不十分である。
- 生徒の一つ一つの発言や記述を受け止めた評価を行う必要がある。

[今後の「改善・充実」に向けて]

- 1) 自分の考えをもち、伝えたい発問の工夫
 - ・「私のせいじゃないって本当でしょうか」など、生徒がハッとさせる発問を設定する。
 - ・「どちらに共感できますか。」など、立場をはっきりさせた上で、理由付けや比較をしやすい二項対立型の発問を設定する。
- 2) 考えを深めるための振り返りの充実
 - ・終末で、「主人公の行動は、一番良かったと思いますか」「授業を通して学んだことは何ですか」などと問うことで、新しい見方・考え方を生み出せる振り返りにする。
- 3) 学習指導過程における指導と評価の一体化
 - ・期待する生徒の学習後の姿を明確にした指導計画を作成して授業を行い、生徒の学習状況を適切に把握し、生徒の意欲付けや、更なる成長につながるような評価にする。



IV 実践事例⑦

「家庭や地域社会との連携による指導」

<世羅西中学校>

- 学年 第1学年
- 主題名 「心に郷土を刻もう」【C：郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】
- ねらい ダム建設によって水没した町の状況下で「この町に生きた人々の想いはなくならないんだよ」と言ったおばあちゃんの思いを考えることを通して、郷土を愛し、大切にしていこうとする道徳的な態度を養う。
- 教材名 「水没した駅」(「中学校 心の元気Ⅱ」(広島県教育委員会)一部改)
- 主題設定の理由

〔主題観〕

本主題は、中学校学習指導要領特別の教科道徳の内容項目【C：郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】「郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。」に基づくものである。

今日、都市化が進む一方で過疎化も進んでおり、そのために郷土に対する愛着や郷土意識が希薄になっている傾向が見られる。しかし、生徒にとって地域社会は家庭・学校とともに大切な生活の場であり、伝統や文化に触れ、体験することを通して、そのよさに気づき、郷土への愛着や誇りを高めるとともに、郷土に対して主体的に関わろうとする心や態度も育まれる。また、郷土を創り上げてきた先人や高齢者たちの努力に触れることなどを通して、感謝の心をもち、地域社会の一員としての自覚をもてるようになってほしいと願い、本主題を設定した。

〔生徒観〕

本学級の生徒は、小中連携を軸としたせらにし教育研究会の諸活動の中で、地域に出向いての学習を継続して行ってきた。2学期には、校区内にある4つの自治センターと連携し、小・中学校合同で「花いっぱいふれあい清掃活動」を行い、11月に行われる実業団駅伝の沿道を花で飾ろうとプランターへの花植え作業や草取り、各施設の清掃活動を通して、普段ゆっくり話せない地域の方々との交流を深めることができた。また、本校では、総合的な学習に時間で伝統芸能継承活動として「明神の舞」を行っており、今年で13代目になる。この活動においても地域の方々の物心両面でのご支援をいただきながら、今日まで継承させている。生徒の気持ちの中には温かい地域の見守りがあると常に感じて生活している。

その半面、5月に実施した道徳アンケートの中で、「今、住んでいる地域が好きだ」という項目に対する回答は、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が20人、「どちらかといえば当てはまらない」が2人であった。この2人の理由の具体の検証は十分にできていないが、過疎化の中で、都市と比較したときの不便さや、都市へのあこがれなどからの回答と推測される。

郷土に対しての先人の努力などによって自分が支えられているという自覚や、それらの人々への尊敬や感謝の気持ちに触れることが希薄になっていると考えられる。

〔指導観〕

本教材は、ダム湖畔でキャンプをしたとき、不自然な場所にある駅を見つけ、その昔、ここに駅があったこと、その後ダムが建設されてこの駅（町）が沈んだということが、喫茶店のおばさんの話から明らかになっていくという内容であり、旧甲山町の昭和38～47年にかけての実話である。世羅町内で実際にあった話を基にして開発された教材を活用することにより、生徒たちは、今までと違った角度から郷土について深く考え、郷土の大切さを見つめ直すことができると考える。

指導に当たっては、自分の町が消えるという事実の中で、町で長く生きてきたおばあちゃんが言った「この町に生きた人々の想いはなくならい」「今から住んでいく町を愛していくことも大切なのでは」という言葉に込められた思いについて深く考えさせ、自分たちの郷土を愛し、大切にしていける態度を養いたい。

本校の研究テーマ「家庭や地域社会との連携による指導」に関しては、本教材は世羅町における実話であることから、＜自分にとってのふるさと＞とはどういうものなのかを深く考える場面づくりをしたい。この授業を通して、ふるさと世羅を創り上げてこられた先人の思いに気づき、その上で改めて自分たちの取り組む「明神の舞」への思いも強くしてもらいたい。

- 準備物 教材文、八田原ダムの写真（スライド）、発問の短冊、ワークシート

● 学習指導過程

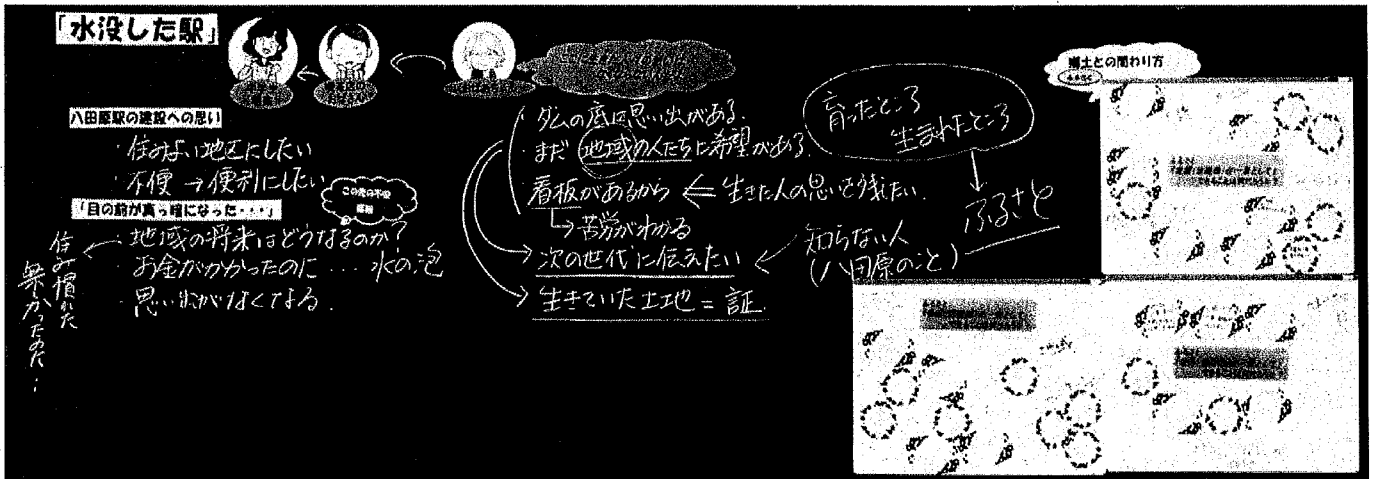
	学習活動	○主な発問 ・予想される心の動き	指導上の留意点
導入	1 「明神の舞」のラストである全校合唱「ふるさと」の写真を見る。	○「ふるさと」を、どんな気持ちを込めて歌っていますか。（どんなイメージが湧きますか。） ・父母や友や地域への感謝の気持ち。 ・自分の育った豊かな土地だということ。 ・有名になってふるさとへ帰る誇り。 ○「ふるさと」とは、どんなところですか。 ・なくてはならないところ。 ・いつでも帰れるところ。 ・素になれるところ。 ・温かいところ。	※事前アンケートの回答を紹介する。
	2 廃駅「八田原駅」の写真を見て、史実を読む。		※世羅町における史実であることを伝え、八田原ダムの歴史的背景に関心をもたせる。

<p>3 八田原駅建設に対する住民の気持ちを考える。</p>	<p>○八田原駅を建設するのに一致団結した当時の住民には、どんな気持ちがあったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不便な生活から便利な生活を送りたい。 ・自分たちの町を住みやすくしたい。 	<p>※教材から住民の努力や熱意を捉えさせる。</p>
<p>4 ダム建設により、町が湖に沈むことを聞いたおばさんの気持ちを考える。</p>	<p>○八田原地区がダムの底に沈むと聞いて、「目の前が真っ暗になった」のは、どんな気持ちからだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の住む場所がなくなってしまう。 ・これからどうなるのか。 ・多額のお金を払ったのに。 ・今までの苦労が全て水の泡になる。 	<p>※住民の辛くやりきれない思いを感じさせる。</p> <p>※「ふるさと」の3番が果たせなくなることと重ねさせ、ふるさが消える感情を押さえる。</p>
<p>5 おばあさんの郷土への思いを捉える。</p>	<p>◎おばあさんは、どのような思いから「この町に生きた人々の想いはなくなるんだよ」と言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区を大切する思いは変わらないから。 ・地区があったことを誇りに思うから。 ・自分の地区のことは一生忘れないから。 ・また新しい場所に住んでも、その町を愛していけば良いから。 <p>(補助発問)</p> <p>○当時の住民は、どのような思いから「八田原駅」の看板を残そうとしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八田原地区があったことを忘れないでほしい。語り継いでほしい ・どんなことがあっても、ふるさとを大切にしたい。 	<p>※おばあさんの一言にはどのような深さがあるのかをじっくり考えさせる。</p> <p>※ワークシートに自分の考えをまとめることで、自己決定の場を与える。</p>
<p>6 自分を振り返らせる。</p>	<p>○ふるさと「世羅(世羅西)」を大切にするために、私たちはどのようなことができるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明神の舞」を大切に守り、継承する。 ・地域の人を大切にする。 ・祭りなどの伝統を守る。 ・世羅西のよさを多くの人に伝える。 	<p>※郷土を愛し、大切にすることについて考えさせる。(小グループでの対話)</p>

キーワード
【おばあさんの思い】
郷土=私たちが(大切に)していくもの

終末	7 学習のまとめをする。	*自己評価をワークシートに書きましょう。 *各地の災害でふるさとを失った方への応援ソング（嵐「ふるさと」）を視聴しましょう。	※本時の自己評価をまとめさせる。 ※しっとりとした雰囲気です。
----	--------------	---	------------------------------------

● 板書例



● 成果と課題

[成果]

- 道徳科では主たる教材として教科用図書を使用しなければならないが、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要である。地域教材は、生徒にとって特に身近なものに感じられ、教材に親しみながら、ねらいとする道徳的価値について考えを深めることができる。これまで世羅町で開発されてきた道徳教育指導教材は複数あるが、「水没した駅」は世羅西で初めて実践することができた。
- 10月に実践したことで、学校で取り組んでいる「明神の舞（ふるさと合唱）」への気持ちを高めていくことにもつながった。
- 「郷土が好き」から発展し、「郷土にどう関わっていくか」について、自分事として考えることのできる学習となった。

[課題]

- 生徒にとって「郷土」とは何なのかを、事前にきちんと把握しておくことが必要である。その実態から、中心発問に設定したおばあちゃんの言葉から、新たに出てくる郷土への愛着（郷土愛）へと更に深めていくことができた。
 - 中心発問への時間をもう少し確保したらよかった。
 - 時間配分の工夫が必要だった。
 - 生徒が書いた「ふるさと世羅にできることは何か」について、導入時に提示し、終末で再度投げかけることで、郷土に対する態度の変容の見取りにつなげる。